

四 北条氏康書状（「東京大学白川文書」）

北条氏康、白川晴綱に、佐竹義昭の出陣を知らせ、小田氏治及び鳥山城の那須資胤と相談した軍事行動を要請する。

如仰未申通候処、預御札候、本望候、於向後者、別可申断候、抑義昭半途（佐竹）

へ被打出由候、此時小田・鳥山被示合、一途御行所希候、当口遠境間、氏治・（小田）

晴朝・資胤被仰談、可為肝要候、恐々謹言、（那須）

（永祿六年カ）
二月十八日

（北条）
氏康（花押）

（晴綱）
白川殿

【読み下し文】

仰せの如く未だ申し通ぜず候処に、御札に預かり候き。本望に候。向後に於いては別して申し断（おんきつ）ずべく候。抑義昭半途へ打ち出でらる由に候。（おもむ）
此の時小田・鳥山と示し合わせられ、一途の御行希う所に候。当口は遠境の間、氏治・晴朝・資胤と仰せ断（ただて）ぜらるること、肝要たるべく候。恐々謹言。